



一致してしまったこと

感動は、
起きたことではなく、
すでにあったものが、
ずれなくなった痕跡である。

揺れたのではない。
ずれていたものが、戻っただけだ。

強さではない。
量でもない。

涙の有無でも、
震えの深さでもない。

出来事の側に、理由はない。

同じ景色の前で、
何も起きない人がいるように、
それは外には属していない。

動いた、というより
止まった。

光。
間。
温度。

それらは、前からそこにあった。

変わったのは、位置だけだ。

わずかにずれていた視点が、
戻る。

外と、内の準備が、
同じ深さで重なる。

新しく受け取ったのではない。
重なってしまっただけだ。

言葉が減る。

足りないのではなく、
足す必要がなくなる。

理解と感覚、
意味と沈黙が、
分かれなくなる。

残るのは、短い一言。

その奥に、
一致が沈んでいる。

動いたのではない。

戻っただけだ。



Edition — 存在の芯
別景：一致してしまったこと

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026